

# 報告書〔11〕 分析結果及びフローシート

## 12 アセフェート

分析実施機関名	整理番号	*	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001 2. ISO 9002 3. ISO 9003 4. ISO 14001 5. なし
分析主担当者名		*	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(検体数)	検体

分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)

注1) 2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。

分析開始日	月 日
分析終了日	月 日

<GC/MS法>  
<GC法>

試料の分取 ①  
濃縮(約20mlまで) ②  
塩化ナトリウム  
溶解  
多孔性ケイウ土ガムクロマトグラフィー ③④  
溶出液(酢酸E刊)  
濃縮(溶媒を留去)  
アセトン ⑤  
定量容 ⑥  
GC/MS ⑦⑧  
又は  
GC ⑨

<分析法等>

分析法	⑩ 1. GC / MS 2. GC / F T D 又は GC / N P D 3. GC / E C D 4. GC / F P D 5. その他( )
クリーンアップ	⑪ 1. ケイ酸マグネシウムガムクロマトグラフ 2. ケイウ土ガムクロマトグラフ 3. その他( ) 4. 実施しない
試料量	⑫ ( ) ml
溶出溶媒の種類	⑬ 1. 酢酸E刊 2. その他( )
溶出溶媒の使用量	⑭ ( ) ml
転溶溶媒の種類	⑮ 1. アセトン 2. その他( )
濃縮方法	⑯ 1. K D 2. ロタリーエバボレーター 3. その他( )
最終定容量	⑰ ( ) ml

<分析条件>

機器型式(GC)	メーカー( ) 型式( )
機器型式(MS)	メーカー( ) 型式( )
測定質量数 GC/MS	①( )
装置型式	② 1. 単集束 2. 二重集束 3. 四重極 4. イオントラップ 5. その他
注入検出法	③ 1. S I M法 2. マスクマトグラム法
カラム型式	メーカー( ) 型式( )
カラム形状	④ 内径( ) mm ⑤ 長さ( ) m ⑥ 膜厚( ) μm
カラム昇温条件	初期 温度 _____ ~ _____ 最終 温度 _____ 保持 分 _____ / 分 _____ / 分 保持 分
キャリヤガス条件	⑦ 1. N <sub>2</sub> 2. He 3. その他 ⑧ ( ) ml / 分
試料注入部温度	⑨ ( )
試料注入方法	⑩ 1. スプリット 2. スプリットレス 3. コールドオンカラム
検出器温度(GC)	⑪ ( )
追加ガス条件(GC)	⑫ 1. N <sub>2</sub> 2. He 3. その他 ⑬ ( ) ml / 分

<検量線の作成等>

定量方法	⑭ 1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 内標準物質の種類( ) 添加量⑮( ) ng
試薬(標準原液)	⑯ 1. 購入 2. 自作 1. の場合メーカー( )
検量線	⑰ 作成点数( ) 範囲⑱( ) ~ ⑲( ) 単位 ⑲ 1. ng(注入量) 2. mg/l(濃度) ⑳ 最高濃度のピーク高又は指示値( )
試料溶液	㉑ ピーク高又は指示値( )
ブランク	㉒ ピーク高又は指示値( )

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点

試料溶液の調製について	-----
測定方法について	-----